

新規事業採択時評価結果（令和3年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：前佛 和秀

事業の概要

事業名	地域高規格道路 美作岡山道路 国道374号 吉井英田道路	事業区分	一般国道	事業主体	岡山県
起終点	自：岡山県赤磐市光木 至：岡山県美作市城田	延長	11.5 km		
事業概要	美作岡山道路は、中国縦貫自動車道及び山陽自動車道に接続し、既存の高速道路と一体となって岡山県内を結ぶ環状高速道路網を形成する延長36kmの地域高規格道路である。これまでに21.5kmを供用しており、3.0kmが事業中である。国道374号吉井英田道路は、残る11.5kmの区間である。				
事業の目的、必要性	国道374号吉井英田道路は、美作圏域と岡山圏域の交流を促進する地域高規格道路「美作岡山道路」の一部を構成するもので、既存の区間と一体となり、物流環境の向上による沿線への企業立地の支援など、地域の産業振興に寄与するとともに、災害時の道路ネットワークの代替性の確保や救急搬送時間の短縮により地域の安全・安心に資する道路である。				
全体事業費	約475億円	計画交通量	約15,700～15,800台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
沿線市町で構成される美作・岡山間道路整備促進期成会（美作市、岡山市、赤磐市、美咲町、勝央町、和気町）や美作～岡山間道路改修促進期成会（赤磐市、岡山市、美咲町、美作市）から早期整備を要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
岡山県事業評価監視委員会から、本箇所の新規着手は妥当と判断されている。

事業採択の前提条件
費用対便益：便益が費用を上回っている。
手続きの完了：環境影響評価が完了（平成29年6月）

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.4	総費用：342億円 （事業費：333億円 維持管理費：9億円）	総便益：478億円 （走行時間短縮便益：380億円 走行経費減少便益：69億円 交通事故減少便益：30億円）	基準年：令和2年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.3 (交通量 -10%)	B/C=1.6 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=1.3 (事業費 -10%)	B/C=1.6 (事業費 +10%)		
	事業期間変動	B/C=1.2 (事業期間 -20%)	B/C=1.6 (事業期間 +20%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	—	・注目すべき影響はない		
		事故対策	○	・並行する現道の通過交通の転換による死傷事故の減少。 【死傷事故率】 並行する区間（国道374号） 39.9件/億台キロ ※岡山県管理道路平均37.2件/億台キロ		
		歩行空間	○	・生活道路や通学路として利用されている現道において、物流などの通過交通が転換することにより、沿線住民や通学児童の安全・安心を確保する。		
	社会全体への影響	住民生活	○	・第三次救急医療施設「津山中央病院」への搬送時間短縮による救急医療体制の強化。		
		地域経済	◎	・中国縦貫自動車道や山陽自動車道へのアクセスが向上し、物流の効率化による沿線への新たな企業立地や観光振興を支援。		
		災害	◎	・事前通行規制箇所や冠水等による通行止めの頻発箇所を回避。 ・既存の高速道路と一体となった県内の環状高速道路網の形成により、大規模災害時のネットワークの代替性を確保し、円滑な救援活動や物資輸送に寄与。		
		環境	—	・注目すべき影響はない。		
地域社会		◎	・美作圏域や岡山圏域への通勤や通学をはじめとする生活圏域の拡大や交流人口の増加による地域活性化に寄与。			
事業実施環境	◎	・「美作・岡山間道路整備促進期成会」や「美作～岡山間道路改修促進期成会」からの早期整備について強い要望がある。				

採択の理由

費用便益比が1.4と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。吉井英田道路の整備により、救急医療活動の支援、大規模災害時のネットワークの代替性の確保、高速道路へのアクセス向上による物流の効率化など、当該事業の整備の必要性・効果は高いと判断できる。以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。